

目次

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[FDDI をサポートするワークグループ デバイス](#)

[モジュラ FDDI コンセントレータ](#)

[10BaseT スイッチ](#)

[モジュラ スイッチ](#)

[一般的なトポロジ \(接続関係 \)](#)

[光バイパス スイッチの接続](#)

[一般的なタイプの FDDI および CDDI インターフェイス コネクタ](#)

[MIC - 二重モード](#)

[RJ45 - 二重モード](#)

[ST- シンプレックス](#)

[RJ45 - CDDI のピン配置](#)

[一般的なタイプの FDDI および CDDI ケーブル](#)

[光ファイバ ケーブルのタイプ](#)

[CDDI Catalyst 5000 UTP RJ45 ケーブル](#)

[CDDI-FDDI トランスレータの使用](#)

[WS-C1201 と WS-C1100 の A & B ポートを使用した単純な FDDI リングの作成](#)

[背景説明](#)

[WS-C1100](#)

[WS-C1201](#)

[WS-C2820 SAS と WS-C1100 の接続](#)

[背景説明](#)

[WS-C2820 の設定](#)

[Catalyst 5505、WS-C1100、および WS-C1400 を使用したデュアルホーム シナリオの作成](#)

[背景説明](#)

[WS-C5000](#)

[設定が機能していることを検証するために使用するコマンド](#)

[設定のトラブルシューティングに使用するコマンド](#)

[コマンドの概要](#)

[付録 A : FDDI インターフェイスにおける show port コマンドの各フィールドの説明](#)

[WS-C1100 / WS-C1201](#)

[WS-C1400](#)

[WS-C5500](#)

[付録 B : FDDI インターフェイスにおける show mac コマンドの各フィールドの説明](#)

[付録 C : FDDI および CDDI モジュールの LED](#)

[WS-C1100/WS-C1400/WS-C1201/WS-C5500](#)

[付録 D： FDDI ネットワーク トポロジのリバース エンジニアリングの演習](#)

[タスク](#)

[関連情報](#)

[概要](#)

この文書は、Catalyst スイッチおよびワークグループ コンセントレータの Fiber Distributed Data Interface (FDDI; ファイバ分散データ インターフェイス) ネットワークへの接続に関わる、いくつかの一般的な問題について説明しています。 サポートされるトポロジ (接続関係) のほか、一般的なインターフェイスおよびケーブルのタイプに関する情報も提供します。 また、FDDI ポートを有効および無効にする方法と、FDDI リングが稼働していることを確認する方法も示します。

[はじめに](#)

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[前提条件](#)

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

この文書のシナリオを作成するため、ラボ環境で次の機器を使用しました。

- 端末 1 台
- 各デバイスに適合するコンソール ケーブル x 1
- WS-C1100* FDDI コンセントレータ x 1WS-C1531 A/B MM カード x 1WS-C1143 8 M ポート MM MIC カード x 1
- [WS-C1201 イーサネット スイッチ x 11](#) WS-C1511 A/B MMカード
- WS-C1400 FDDI コンセントレータ x 1WS-X5101 A/B MM MIC モジュール x 1
- Catalyst WS-C5505 x 11 WS-X1441 A/B 及び 6 つの M ポート MM MICカード
- 1 つの Catalyst WS-C2820WS-X2842 B MM MIC SAS モジュール x 1
- Catalyst WS-C5505 x 1WS-X5101 A/B MM MIC モジュール x 1

* WS-C1400 は WS-C1100 の後継製品です。 WS-C1100 に関する製品カタログ情報はすでに入手できません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。 このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。 対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

[背景説明](#)

この文書のトポロジ情報のほとんどは、ルータ、サーバ、およびその他の FDDI 対応デバイスにも適用されます。

[付録 D に、スイッチおよびコンセントレータで利用可能なコマンドのみを使用した、FDDI ネットワークトポロジのリバースエンジニアリングの演習があります。](#) この演習では、スイッチおよびコンセントレータから構成される FDDI ネットワークの管理に必要な、基本的なコマンドの例を示します。

この文書は、ネットワーク内のトポロジが変更された場合の FDDI の動作に焦点を合わせています。FDDI ネットワーキングの仕様に関するチュートリアルではありません。ANSI FDDI 規格について理解しておくは FDDI ネットワークの管理に役立ちますが、一般的な問題の多くはこの規格について理解していなくても解決できます。

この文書には、VLAN、FDDI からイーサネットへのフレーム変換、FDDI からトークンリングへのフレーム変換、トランスペアレントブリッジング (802.1d STD) などの、レイヤ 2 以上の問題に関する情報は含まれません。

[関連情報](#)